



広報

№.259

～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口

(平成5年7月末現在)

世帯数	8,394戸
人口	27,158人
男	13,890人
女	13,268人

7月の人口移動

出生	25件	死亡	9件
転入	72件	転出	97件
婚姻	12件	離婚	2件

編集・発行/西原町役場文化広報課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(946)9846 印刷/(協)丸正印刷



とじて保存すると便利です

正しい綱引きを伝えよう ～呉屋、津花波～

8月15日、呉屋区(阪本登代子区長)では、23年ぶりに本格的な綱を用いる綱引きが、呉屋区公民館前で
行われた。これは、区青年会のOBたちで組織する呉友会が中心となり、伝統は正しい形で残すべきだとい
うことで復活したもの。それまでは、ロープで代用していた。15日は半日かけて区民約60人が参加して綱づ
くりをした。午後6時30分からの大綱引きには、区民約150人が参加した。

なお、津花波でも24年ぶりにそれまでのロープから綱へと復活。幸地区では、今回からニーサー綱を上組・
下組合同で事前に作成。前日の14日には子ども沖縄相撲大会が行われ、大いに賑いました。また、15日は町
内各地で綱引きが行われた(幸地、棚原、小波津、小橋川、内間、嘉手苅、小那覇、我謝等各区10ヵ所)。

21世紀を創造する人間性豊かな「文教のまち西原」



8月5日役場玄関で出発式を行う

―被爆地広島市へ町民を派遣し被爆の実相と平和の尊さを学ぼう―と、「平成五年度西原町親子平和使節団」(平安恒政団長他十八名)が、八月五日から八日までの日程で広島市を訪問した。

これは、昭和六十年度に決議された「町非核反戦平和都市宣言」を町民と共に推進するために平和事業の一環として行われているもの。平成四年度から、それまでの平和交流団から親子平和使節団に名称を改め、今年度は、八組の親子(町立各小・中学校及び琉大附属小・中学校から各一組ずつ)及び関係者ら計十九人を派遣。

出発に先立ち七月二十六日午前、町役場二階会議室で使節団の認定証交付式が行われ、平安町長から「被爆地広島市へ行って、いろいろな人や物に接し、被爆の恐しさ、戦争の愚かさを追体験し、平和に對する意識を高めて下さい」と激励され、認定証の交付を受けた。

使節団は、五日に出発。その夜には被爆者二人を招き、



広島市原爆戦没者慰霊式・平和祈念式典で黙とう

使節団一行は、広島滞在中、非核都市宣言自治体連絡協議会の全国大会及び広島市原爆戦没者慰霊式・平和祈念式典への参加、平和記念資料館や原爆ドームの見学など平和学習を重ねた。また、市内の広島赤十字・原爆病院を慰問し、被爆者専



広島赤十字・原爆病院で被爆者の方に折り鶴を贈る

平安団長の「広島を語る会」の語り部である沼田さんや上田さんの話は被爆体験者ならではの実感に伴う生の声です。原爆の恐しさ、戦争の無念さ、平和の尊さなどを学んだことと思います」というあいさつの後、団員各自が感想を述べ、報告を行った。

被爆の実相に学ぶ

―'93ヒロシマ・48回目の夏―

町親子平和使節団



被爆者を招いて体験談を聞く使節団一行

体験談を聞いて交流した。被爆で片足を失った話、今でも続く後遺症、被爆二世といわれる子どもたちの話など生々しい証言に、団員たちも肯いたり、涙をこらえながらの交流となった。



広島赤十字・原爆病院で被爆症状について聞く

用病棟で入院中の被爆者の方々と話したり、各学校の子どもたちが作った折り鶴を贈ったりするなどして交流した。

八月十六日午後には、町役場二階会議室で、使節団の感想報告会が行われた。



被爆の象徴・原爆ドーム

国仲恵子(親・琉大附属中)さんは「今回学んだことをどれほど正確に子どもたちに伝えられるだろうか。参加した人々と知りあえたのもよかった。これからも続けていきたい。これからは「正しい」としてほしい」、澤嵜昌一郎(子・坂田小六年)さんは「沼田さんから語り部の話を聞いて、原爆はその場で死んでしまうだけでなく、例え生き残っても後遺症で苦しむなど恐いものであることが、実感として分かった」と感想を述べた。その他にも、「これまでも西原町平和駅伝などに参加してきたが、自分自身の平和についての認識を改めて考える機会になった」、「自由でありあ

親子で学ぼう 平和の尊さ

第六回 親子戦争追体験平和バスツアー



糸数壕(アブチラガマ)で

り前のことがあたり前であること、自分の権利を主張できること、現在の日本は思ったことを口に出していいるので、自分の一票を大切にしたい」、「平和はみんなが意識して語り継いでいくことが大切」な

どいくつもの意見や感想が述べられた。

なお、参加者は次の通り。

▽学校推薦―岳原豊子・由香里(西原小)、大城美千子・愛美(西原東小)、澤嵜美代子・昌一郎(坂田小)、奥平廣子・

第六回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー(町・町教育委員会共催)が、八月十三日に実施された。

この平和バスツアーは、昭和六十年に決議された「非核反戦平和都市宣言」に基づき、同宣言を全町民的に推進し、戦争体験を子孫に正しく伝承していくため、親子で町内、県内の戦争跡地や平和祈念資

祥子(西原南小)、宮城順子・朝久(琉大附属小)、中里秀男・紀行(西原中)、城間義光・由紀(西原東中)、国仲恵子・祥子(琉大附属中)
▽関係者―平安恒政、波平常則、新川高志 (敬称略)

料館を訪ね、戦争の悲惨さや無益さを学び、平和の尊さについて実地で学習することにより平和に対する町民の意識の高揚を図ることが目的。

バスツアー出発式で平安恒政町長は、「平和というものは健康などと似ていて、その重要性が頭では分かっている、失ってはじめて実感として分かるものです。ただ単に戦争が無いという状況で平和とはいえないのでは。平和の尊さを学び、次の世代へ伝えられる人となってほしい」とあいさつ。

平和バスツアーには、約百五十人(三十人の西原南小家庭教育学級の親子含む)の親子が参加、大型バス三台に分乗、西原の塔で献花、一分間の黙とう、本町の戦況状況の説明を受けた後、宇小波津地内

敬老の日
(9月15日)

の旧日本軍陣地壕跡、南風原陸軍病院跡、糸数壕(アブチラガマ)、平和祈念公園、県立平和祈念資料館、豊見城村旧海軍司令部壕などを「平和ガイドの会」メンバーの説明を受けながら見学、追体験した。三年前にも親子で参加した新屋美年子さんは「激戦地という南部のイメージがあったけど実際は、西原町や那覇市首里、浦添市などだったのは意外な気がした。また、非戦闘員として死んでいった人の多くが女性であったことはショックでした」、子どもの悦子さん(西原小五年)は「戦争で死ぬのは軍人だけじゃない。むしろ弱い立場の民間人が犠牲性となり易い。また、本町が激戦地とは知らなかった」とツアー参加の感想を述べた。

「…よって西原町民は、…核の廃絶と恒久平和の確立をめざして全力を尽くすことを宣言する」
(町非核反戦平和都市宣言、昭和60年12月18日)

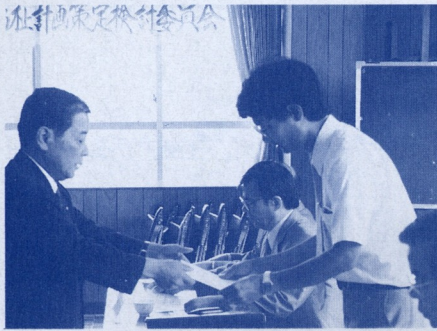
町老人保健福祉計画策定に向けて

計画策定検討委員に委嘱状を交付

七月三十日午前、町役場二階会議室で、町老人保健福祉計画策定委員への委嘱状交付が行われた。

これは、老人保健法(第四十六条の十八)・老人福祉法(第二十條の八)に基づき「西原町老人保健福祉計画」の策定に向けて、町老人保健福祉計画策定検討委員会を設置しようというもの。委員会は十四名以内で組織され、任期は平成

六年三月三十一日まで。あいさつの中で平安恒政町



委嘱状交付のようす

長は「これからは、福祉・保健・医療等が統合化して求められる時代。立派な保健福祉計画を策定して、効果的な福祉施策が推進できるようお願いします」と述べた。

ひきつづいて第一回町老人保健福祉計画策定検討委員会が開かれた。委員の互選の結果、委員長に西表孫称(沖縄女子短期大学教授)氏、副委員長に宮城嗣善(アドベンチスト・メデイカルセンター医師)氏が選出された。西表委員長は「実効性のある計画をつくりたい」、宮城副委員長は「みなさんと共に勉強しながら計画をつくっていきましよう」とそれぞれ挨拶した。その後、比嘉貞宗福祉課長から計画策定に向けての説明を受け、第二回委員会から計画案の具体的な検討に入ることを確認した。なお、町老人保健福祉計画策定委員は次のとおり。

▽委員長・西表孫称▽副委員長・宮城嗣善▽委員・平良一彦、小川良夫、呉屋厚雄、宮平正和、上地安治、城間太郎、稲福政昌、呉屋清、棚原盛光、比嘉貞宗、小波津弘子、長嶺房子(敬称略)

行動する女性を目指し、初の講座



熱心な「さわふじ」受講生たち

⑤わやかに⑥(和)気あいあいと⑦(れ)あいながら⑧(己)変革をめざそうと、初の女性講座「さわふじ」(九月二十九日まで週一回、八回開講予定)が八月四日午後、町中央公民館で開かれ、約一〇〇人の受講生らでにぎわいました。

これは、男女共同社会の実現に向けて学習することによって、行動する女性を目指すもので、主催は町教育委員会(生涯学習課)。

一回目の八月四日は「法律からみた男女平等」と題し、真境名光さん(弁護士)が講話。明治憲法からこれまでの法律の流れを説明した後、真境名さんは「法の下では平等になったが実態はまだまだです」と述べ、男女の意識変革の重要性を話しました。なお、講座の中では、女性史や平和と女性、消費者教育などを学習する予定。



子どもたちも熱演

町ひとり暮らし老人激励会を開催

町内在住のひとり暮らしの老年寄りを激励しようとして、「平成五年度町ひとり暮らし老人激励会」が、七月二十三日午前、町社会福祉センターで七十人近い参加者を集め開かれた。主催は、町社会福祉協議会。

宮平吉太郎町社会福祉協議会長あいさつにつづいて、平

安恒政町長は、「ひとり暮らしなので、日頃から健康に気をつけ、さまざまな機会を利用してどんな表に出て、たくさんの人たちと交流しましょう」とあいさつした。

子ども三味線や子ども琉舞など、かわいいチビッ子たちの演技に拍手喝采。福引きやゲームをして楽しんだ。昼食後は民謡ショーやカチャシーで盛りあがり、盛会裏に終わった。

今月から町役場は毎週土曜日が休みになります。



参加した善行青少年たち

次代を担う青少年の健全育成を

◀町青少協総決起大会▶

青少年に豊かな環境と的確な指導・育成を——と第十回町青少協総決起大会が、七月十七日午後、町中央公民館で開催されました。

今回は、青少年の参加が多く、全体で約五百人が参加が多く、全体で約五百人が参加。県営西原団地ひまわり子ども会による「ひまわり祭太鼓」のアトラクションで幕を開け、與那嶺浩町青少協副

会長の開会あいさつ。つづいてあいさつした平安恒政町青少協会長は、「最近、中学生による集団暴力行為等が目立っている。みんなで命の尊さについて真剣に考えよう」と呼びかけた。その後、児童・生徒三人による意見発表が行われ、善行青少年を含む五十一人の個人および八団体が表彰されました。

意見発表では西原南小六年の重森千秋さんは「不良」になるのは本人の意志の弱さで周りの人間関係の希薄さからくる疎外感だと思う、西原中三年の仲宗根瑞香さんは「非行」は自分に対する甘さから起こる。また、自信の無さをこまかく『集団』の持つ恐しさ、西原高校二年の仲宗根美香さんは「やればできる」という強い意志を持つことが大切」とそれぞれ訴えました。

さらに、緊急アピールや大会宣言決議を行いました。

なお、表彰された人は次の通り。

(敬称略)

▽坂田小・小波津俊、大前繰、澤岬昌一郎、伊波芳准、玉城

美輝子、有久尚子▽西原小・新垣裕、渡久地政哉、嶺井大輔、前川和久、與那嶺実奈子、平良周子、伊藝梓、宮平真紀子▽西原東小・渡慶次司、与那嶺美穂、泉川豊、平良雄作、室田真希、石川倫子▽西原南小・城間信大、園田鉄郎、知念綾子、城間恵子、長濱奈月、重森千秋▽西原東小・長嶺剛、與那嶺愛子、田港重理沙、井口良治▽西原中・与那覇道、呉屋善太、仲宗根瑞香、仲宗根正也、石川美稚代、国吉都子▽西原東中・重森誠仁、金

城幸男、宮城瞳▽西原高校・大城まり子▽町子連・屋良聖子、豊村早希▽青少年健全育成功労者・呉屋實、與那城一美、小鍋玉子、真栄城八重子、比嘉八重子、安谷屋千恵子、前田光則、新垣哲永、与那嶺茂吉▽その他・西原小卓球部、西原小サッカー部、西原東中男子バレー部、西原東中男子卓球部、西原東中女子ソフトテニス部、西原東中男子柔道部▽西原高校・吹奏楽(マーチングバンド)部。

ムーチョ・グスト西原

―研修生歓迎・激励会―

平成五年度西原町海外移住者子弟研修生歓迎・激励会が、七月二十三日午後、西原共同福祉施設二階ホールで、関係者四十余人余が参加して開催された。

今年度の研修生はアルゼンチンから玉那覇ロミーナ・エルバさん、ペルーから城間エベリン・ロクサナさんの二人。玉那覇さんは高校三年生で、この研修を受けるため休学。

六カ月間にわたり日本語・日本文化について学ぶ。

城間さんは大学三年生で、やはりこの研修を受けるため休学した。株式会社総合コンピュータでコンピュータ、その他に日本語・文化を学ぶ。

この事業は、町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れ、技術研修や町民との交流を通して社会の発展に寄与する人材を育成し、併せて町民の国際交流思想の高揚と移住国社会と町との友好親善を図ることを目的として行う

もので、平成二年度から実施している。

主催者あいさつの中で平安恒政町長は、「本町は移民の多いまちで、移住者は世界各地で活躍しています。二人ともそれぞれの研修科目をしつかり学んで、所期の目的を遂げるよう頑張ってください」と激励した。

玉那覇さんは「将来は建築設計士になりたい。両親の故郷沖縄で日本語と日本文化の勉強をします。六カ月の研修期間中、一生懸命頑張ります」

城間エベリン
ロクサナさん玉那覇ロミーナ
エルバさん



九州代表として頑張ります

7月15日、町人材育成会(平安恒政会長)から平良比呂志(琉大附属中3年)さんに対し、助成金の交付があった。

平良さんは7月26日から29日まで福岡県営春日公園テニスコートで行われた第19回全九州中学生テニス選手権大会に県代表ダブルスで出場し、見事九州代表の座を射止めたもの。

8月16日から17日に、名古屋市で行われる第20回全国中学生テニス選手権大会に個人ダブルスで参加する。



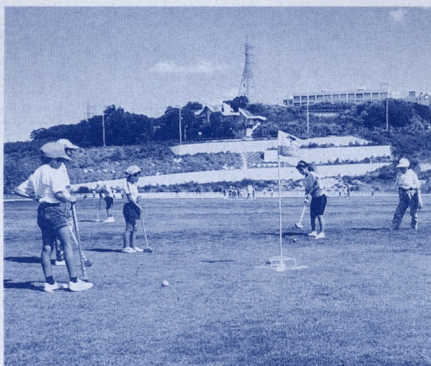
うなふあんちゆの心意気!

7月25日午前、西原東中学校グラウンドで、第1回小那覇区民運動会が開催されました。

これはスポーツ等を通して区民相互の交流を深め、小那覇区(区長中山善正)の活性化を図ろうと運動会実行委員会主催で行われたもの。

中山区長は、「平成3年4月1日の行政区改編以後、小那覇区独自で取り組む初めての運動会です。楽しく、ケガをしないよう気をつけながら頑張らしましょう」とあいさつ。

親子かけっこ、60才以上のボール運び・ボール蹴り、小・中学生や婦人・成人などの年齢別リレー、婦人会指導の西原町音頭、小那覇子どもエイサーなど、多彩な競技種目があり、老若男女ともさわやかな汗を流していました。



あー惜しいー、もうちょい

だれでも、どこでも、気軽に楽しめるグランドゴルフを通して子供たちの健全育成と相互の心の交流を図ろうと、町少年少女スポーツ祭=グラウンドゴルフ大会=が8月6日午前、町陸上競技場で開かれました。

町内小学生を対象に1チーム6人の各字対抗戦で12チームが参加。24ホール競技を行い打数の少ないほうから順位が決まりました。

夏休み期間中の催物であることから、会場では炎天下にもかかわらず黄色い声が響きました。

▷優勝・翁長チーム▷2位・平園チーム▷3位・西原ハイツチーム



国際交流に役立てて

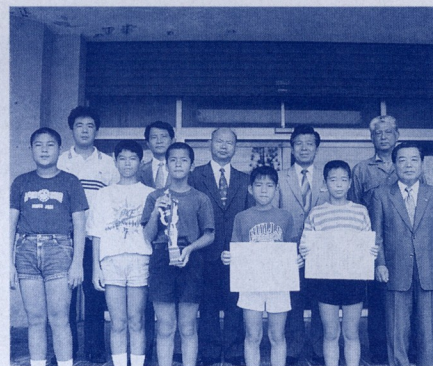
7月23日に町人材育成会から町文化協会書道部部長久高秀山外6名に対し、助成金の交付があった。

これは、7月25日から30日まで上海市で開催される中国・沖縄文化交流書道展への参加費を助成するもの。

なお、参加者は次のとおり。

(敬称略)

▷久高秀山、安谷屋啓子、城間千代、玉那覇実、玉那覇ツル子、玉那覇ユキ、新川ヨシ。



やったぞ準優勝だ

8月2日午後、坂田MBC(男子)が、平成5年度第13回九州ブロックスポーツ少年団ミニバスケットボール交流大会沖縄県交流大会での成績報告を兼ねて、平安恒政町長を表敬訪問した。

この県大会は、7月3日・4日・17日にわたり坂田小学校体育館で行われ、坂田MBC(男子)は21校が参加する中、見事準優勝した。優勝チームと準優勝チームは、8月24日から鹿児島で行われる九州大会へ派遣される。

なお、同大会に坂田MBC(女子)も参加したが、善戦及ばず3位におわり、代表はならなかった。



金秀グループが130万円寄付

「西原町の人材育成のために基金の一部として役立てて下さい」と金秀グループ(呉屋秀信会長)は7月23日午後、町人材育成会への寄付金100万円を平安恒政町長に手渡しました。

町内に工場や事務所をもつ金秀グループの寄付は、今年で7回目。あいさつの中で平安町長は「スポーツや文化面での人材育成等、町人材育成会の基金として有効に活用したい」とお礼の言葉を述べました。また、金秀グループは同日町社協に対しても30万円を寄付しました。

お年寄りや障害者の身になって行動しよう

ちよつとした親切が住みよい社会の第一歩

子どもたちにお年寄りや障害がある人たちとふれあい学ぶことを通して、ボランティアの意義を理解してもらおうと、「平成五年度中・高校・大学生ボランティア体験学習」が、町社会福祉協議会の主催で七月二十六日から三日間、開催された。中学生・高校生三十四人が、町社会福祉センターに二泊三日の宿泊体験学習をした。

参加者は三班に分かれ、そ



れぞれ「特別養護老人ホーム守礼の里(施設長崎浜秀章)・「精神薄弱者更生施設愛泉園(施設長金城吉夫)・「老人保健施設池田苑(施設長山城正光)」でデイサービスや食事介助、リハビリ介助、入浴誘導などきこえないながらも一生懸命学習した。

最終日の七月二十八日には、参加者全員による「アイマスク・車イス体験」が行われた。町社会福祉センターから町役場までを往復、ハンディをもった人の気持ちを身を持って経験した。

大城まり子さん(西原高校三年)は、「アイマスク・車イス体験」で、アイマスクをして歩いたがとてもこわかった。盲人用タイルは点字ブロックの方が分かりやすかった。嘉陽田綾乃さん(西原東中学校三年)は、「車イスに乗ったのは初めて。なかなかまっすぐ進まないのてこわい。腕力もかなり必要」と感想を述べた。

初めての県外研修

〈町子ども会育成連絡協議会〉

また、「施設はもっと目立つところに作った方がよいのでは。そうすれば、体の不自由な人のことが今より分かるようになると思う」などの意見もあった。

町子ども会育成連絡協議会(上亀直一会長)は、七月二十三日から二十六日まで三泊四日の初めての県外研修を実施した。

これは子どもたちに規律正しい団体生活を体験させ、仲間づくりやリーダーの育成、資質の向上を図ることと、太平洋戦争中、西原国民学校の学童たちの疎開地であつた宮崎県北方町(佐藤嘉紘町長)との友好親善を目的として行われるもの。研修には子ども会が二十二名(小学五・六年生)、ジュニアリーダーが七人、育成者が四人の総数三十三人が参加した。

研修団一行は鹿児島を経由

して七月二十四日午後、北方町に着いた。町では佐藤北方町長や関係者ら多数に出迎えられた。

対面式後は、鹿川キャンプ場で北方町の子どもたちと交流した。キャンプファイヤーを囲んでの交流の夕べでは、エイサーやひょっとこ踊り、神楽などお互いの民俗芸能を披露しあつた。

研修団一行は、翌日には熊本県へ観光、二十六日には元気に沖縄に帰ってきた。



北方町での交流会でのようす

〈ちよつとお知らせ〉

下水道にもっと関心を

下水道には①水質の保全②生活環境の整備③雨水の排除④便所の水洗化といった役割があります。しかしながら、本町での下水道事業は未着手のままであり、そのため、公共用水域の水質保全と居住環境の改善等を図ることを目的に平成四年度に「西原町下水道基本構想報告書」を策定しました。

また、七月二十九日には同様な理由から下水道事業の早期取組を願う近隣四町村が要請団を組み、大田昌秀知事へ要請行動を行い、平安町長が代表で要請文読み上げを行いました。今回の要請は、県実施の流域下水道事業の早期着工を要望するもので、本町では平成六年度の公共下水道の概算要望をしています。

日赤へ義援金と収益金を贈呈

八月十六日午前、平安町長は日本赤十字社沖縄県支部成底哲事務局長を訪ねし、北海道南西沖地震災害義援見舞金と去る五月二十九日に行われた赤十字歌謡チャリティーショーの収益金を贈呈した。

広げよう友愛の輪

心身障害児(者)世帯と 母子・父子世帯が交流



子どもたちは水泳で大はしゃぎ

スポーツやレクリエーション等を通して相互理解を深め、友愛と心のふれあいを高めよう」と、「平成五年度町心身障害児(者)世帯並びに母子・父子世帯合同激励ピクニック」が、八月十一日、百十人が参加して宜野座村漢那ビーチで開催された。主催は町社会福祉協議会。

これは、当初中部地区(中頭郡)で行われていたものが

参加規模の増大により、十日程前から各市町村単位で開催するようになったもの。

あいさつの中で宮平吉太郎町社会福祉協議会長は、「みなさんが楽しみにしていた合同

ピクニックです。思う存分楽しんで下さい。また、事故のないよう十分注意して下さい」と述べた。

さっそく海水浴が行われ、初めは恐る恐る海水につかっていた子どもたちも、慣れくると歓声をあげて大はしゃぎ。浮輪をしてボランテアに手をひいてもらったり、おんぶしてもらったり、砂あそびに興じたり。

その後、バーベキューやスイカ割り、全体レクなどもあり、楽しい一日を過ごした。ご協力頂いたボランティアのみなさん、お疲れさまでした。

海外便り

在亜町人会小波津正秀氏叙勲

在亜西原町人会最高顧問の小波津正秀氏(八十八才)が、「平成五年春の叙勲」において勲六等瑞宝章福祉功労を受章し、その叙勲祝賀会が、在亜西原町人会と在亜沖縄県人連合会の共催で、六月二十六日、沖縄連ホールで開催され、二百人近くの出席者が参加して会を盛りあげた。

祝賀会で、新里真一沖縄連

会長は「小波津氏は戦前の沖縄海外協会支部の幹部として、終戦直後は沖縄への救済物資の送り出しや呼寄期成同盟の成立に参加、後輩の呼び寄せに、また、沖縄連の基礎づくりに尽力しました。これからも健康に留意して下さい」と挨拶。玉那覇義明在亜西原



叙勲された小波津正秀氏

お年寄りと子どもたちが世代間交流



「どうやるの」
「ココはね、こーするんだよ」

町人会会長は「同胞の発展のために良き相談相手となり、温厚な人として暖かいふれあいを邦人社会に残して下さい」と述べた。その後は、乾杯、余興、祝辞などにつづいた。祝辞では小波津氏の誠実さと謙虚さ、堪能なスペイン語と経験を生かしての諸手続きの世話、身寄りのないお年寄

りの養老院への世話など、公の功績はもちろん、目立たない社会奉仕の方を讃えるものが多かった。

また、郷里西原町の平安恒政町長から小波津氏の社会奉仕活動や人材育成に対する情熱を讃えるメッセージが寄せられた。

町主催の老人クラブと保育園児との交流会が、七月二十日、町社会福祉センターで百余名が参加して開催された。

西原町老人クラブ連合会五十余人、西原保育所の子どもたち五十人が参加。

呉屋安信町老人クラブ連合会長代理であいさつした与那

嶺誠二副会長は、「むかしのおもちやを作ったり、踊りをおどったり、歌をうたったりして楽しく過ごしましょう」と述べた。

子どもたちによる楽器あそびやリズムあそびが披露され、かわいらしい演技にお年寄りたちも目を細めていた。また、一緒におやつを食べた後は、

お年寄りたちが園児たちにソテツの葉の虫かごや風車など昔の手づくりおもちゃの作り方を教えるなど、世代間を越えて交流した。

お年寄りと子どもたちとの交流は今回が初めて。

地域におけるネットワークづくりを

さわふじプラン地域推進委員会を設置

西原町女性行動計画(さわふじプラン)を全町民的に推進しようとして、西原町女性行動計画地域推進委員会委員の委嘱状交付及び第一回地域推進委員会が八月二日午後、町役場議会委員会室で開かれ、さわふじ実施プランを地域・家庭・職場から推進していくことを確認しました。

委員二十四人に対し委嘱状を交付した後、あいさつに立った平安町長は「国際婦人年を契機に女子差別撤廃条約の批准や男女雇用機会均等法の



あいさつする浦崎成子委員長

制定など、法の下では平等になった。しかし現実にはまだ男女平等にほど遠い。今後はいかに意識を改革し、実践していくにある。さわふじプランを実効性のあるものにするために地域でも推進してほしい」と述べました。

その後、役員選出が行なわれ委員長に浦崎成子さん(坂田)、副委員長に玉城政光さん(西原台団地)と宮城邦子さん(西原ハイツ)がそれぞれ選出されました。就任のあいさつの中で浦崎さんは「全国に先がけて委員公募制を採用した本町は実に画期的だと思う。女性の力を意識的にターゲットに絞って注いでいけば実効性ある計画に結びつくのでは」と抱負を述べました。

第一回地域推進委員会では①町女性行動計画地域推進委員会設置要綱の説明②さわふじ実施プランの説明③家庭・地域・職場で推進していくこと④質疑応答、意見交換などが行われました。

▽学識経験者・玉城政光、新里厚子、宮城邦子▽各種団体・瑞慶覧進、與那嶺絹子、呉屋定子、大城洋子、呉屋安信、阪本登代子、玉那覇俊雄、城間富子、宮平春子、平敷静男、呉屋光子、呉屋實、呉屋厚雄▽地域活動者・儀間信子、新川千代子▽町民公募・浦崎成子、城間民子、金城睦子、金城純▽行政・小川良夫、稲福恭助(敬称略)(任期は平成八年三月三十一日)

本当の健康って何だろう

エプロン通信員 山城 美恵子

健康だけが取り柄の私は、一ヶ月の入院生活を送る羽目になってしまいました。これまで病気に對して傍観者であった私にとって、ショックキングな出来事でした。治療に専念し、健康について考える機会に恵まれたと氣を取り直し自分を慰めました。

一億総病人時代といわれ、人生四十五年説を説く学者も

いる現代、私達は「健康」について真剣に考え、取り組みなければならぬ時期に来ていると思います。

寿命は延びたけれども寝たきりであったり、痴呆症になったり、入退院をくり返すようでは、心から長寿を喜ぶ事はできません。

つい最近の新聞記事で知った事ですが、内部疾患といっ

て心臓・腎臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸等に機能障害者を起こす人が増加傾向にあり、人工透析患者や人工肝門、人工ぼうこうを装着する人などは日常生活が著しく制限されることから身体障害者手帳を持っているという事です。

子供たちの食生活も乱れ、砂糖、インスタント食品の取りすぎで糖尿病や高血圧といった小児成人病や肥満が社会問題となっています。

病氣は先天的なものもありますが、大半は日常生活をうまくコントロールすること

よって予防できるものだと思います。

マースムンジョーグ、酒や煙草のみすぎ、仕事のやりすぎ、運動不足など思いあたる方はいらっしやいませんか。食生活の改善はもちろん、精神保健上の問題、地球にやさしい環境づくり等ムリ・ムダ・ムラのない生活が健康を呼びもどすと思います。

年々上昇傾向にある医療費にストップをかけ、その分の予算を本当の意味での豊かさのために使えないものかと思っています。

忘れないで!!

西原町 農業委員会委員選挙

～ 投票日は 平成5年9月12日(日)です ～

任期満了による西原町農業委員会委員選挙が下記のとおり行われます。
貴重な一票を無駄にしないように皆そろって投票しましょう。

- ◎投票時間：午前9時から午後4時まで
◎投票場所：西原町中央公民館ホール
◎告示日：平成5年9月7日(火)

※選挙人名簿

選挙管理委員会は、平成5年1月1日現在により申請のあった者の資格を調査し、同年2月20日までに選挙人名簿を調整する。この名簿は、同年2月23日から15日間縦覧に供した後同年3月31日に確定する。

農業委員会とは？

委員の選挙権・被選挙権

- ①農業委員会の区域内に住所を有する者
②年齢が満20才以上の者
③10アール(1000㎡≒303坪)以上の農地につき、耕作の業務を営むもの。
④上記の農業経営者と同居の親族、配偶者。
⑤いずれも邦作従事日数が60日以上であると農業委員会で認められた者。

3つの性格

農業・農業者の利益代表機関

●公職選挙法により選ばれた農業委員などにより構成



公正な行政委員会

●農地等の売り買いや貸し借りなどについて公正な審査をする合議体



行動する地域農業振興のリーダー

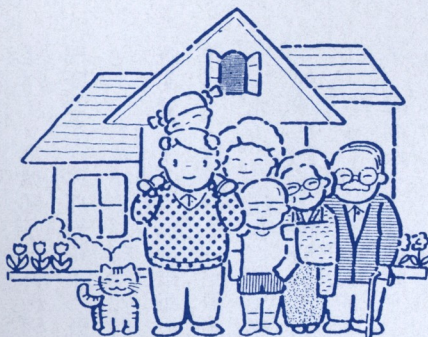
●農業の担い手育成、農地の有効利用・活力ある村づくりの推進機関

お知らせ
でーびる

案内・募集

住宅統計調査にご協力を

10月1日、全国で住宅統計調査が行われます。この調査は、「住宅の国勢調査」ともいわれ、国や都道府県・市区町村が住宅建設計画、都市計画、環境整備計画などを立案していく上での基礎資料となります。対象となった世帯には、知事が任命した調査員が調査票を持ってお宅にお伺いしますので、ご協力をお願いします。



なお、調査した事項は統計を作るためだけに使うもので、その他の目的には一切使用しません。

海技免状更新制度について

昭和62年4月30日から海技免状の更新制度がスタートし、5年毎に海技免状の更新を受けなければならなくなりました(有効期間満了日までに更新の手続きを取らなければ、免状は失効し、その免状では引き続き船舶に乗り組むことができません)。

つきましては、該当者の方は海技免状の更新手続きをお早めになさるようお知らせいたします。

なお、更新手続きは1年前からできます。

※問いあわせ先

沖縄総合事務局運輸部

海運第二課船舶職員係

シルバーサミットは9月4日(土) 午後1時30分、町中央公民館で開催

知っていますか？公図閲覧 には手数料がかかります。

不動産登記法の一部が改正され、10月1日から地図に準ずる図面（公図）の閲覧には手数料が必要になります。

国の基準点（三角点）を基準として境界を測量した地図が備えられていない地域については、土地の位置、形状、地番を示す唯一の公的資料が公図です。

今回公図が法律上登記所に備え付けられ、誰でも手数料（1枚 400円）を納付してその閲覧を請求することができるようになりました。

公図の閲覧手数料は、公図を整備しその維持管理を行うための経費に充てられるなど、登記事務の適正・迅速な処理の推進を図るために役立てられます。

自賠責 加入するまで 赤信号

今年も無保険（無共済）バイク対策協議会（総務庁、警察庁、大蔵省、農林水産省、運輸省等）では、9月1日から9月30日まで「無保険（無共済）バイクをなくそうキャンペーン」を行います。

250cc以下のバイクには車検制度がないこともあって、自賠責保険（共済）の継続契約をつい忘れがちです。小さなバイクだからといって「油断は禁物」、バイクの起こす人身事故も軽視は出来ません。無保険（無共済）で死傷事故でも起こしたら、それこそ大変です。

また、バイクにも自賠責保険（共済）への加入が法律で義務づけられており、無保険（無共済）で走ると、6ヶ月以下の懲役、または5万円以下の罰金、さらに違反点数6点となり、免許停止処分となります。

もし、契約切れになっていたら、最寄りの損害保険会社、代理店（バイク・自転車店、コンビニエンスストア等）農協へいきましょう。

町役場は 今月から 毎週土曜日が休み になります。

町役場では、これまで第2と第4土曜日が閉庁でしたが、今からは毎週土曜日が閉庁になります。

ただし、次の町の機関につきましては、下記のとおり業務を行います。

▶今までどおり第2土曜日が休業日
町立小中学校、幼稚園

▶今までどおり業務を行う機関
町立西原保育所・坂田保育所・児童館・町立中央公民館・町民体育館・陸上競技場

町民皆様のご理解とご協力をお願いします。

※詳しくは、西原町役場総務課
（☎945-5011）まで、お問い合わせ下さい。

〈例えば…〉

1993 9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15 敬老の日	16	17	18
19	20	21	22	23 秋分の日	24	25
26	27	28	29	30		

9月4日はシルバーサミット “町民のみなさん、ぜひご参加を！”

◎テーマ

新しいシルバー像をもとめて
かた 語やびら うまんちゅ 御万人のために

◎スローガン

築こう心豊かな長寿社会！！

◎日 時 平成5年9月4日(土) 13時30分

◎場 所 西原町中央公民館大ホール

◎主 催 西原町

☆なお、詳しくは

西原町役場 文化広報課まで

TEL.098(946)9846

9月(Sep.) 行事・祭事予定

(※今月から毎週土曜日は閉庁です。)

- 1日(水) ○心配ごと相談 14:00 社会福祉センター (8日、16日、22日、29日)
 3日(金) ○食事サービス事業 10:00 社会福祉センター (10日、17日、24日)
 ○石川真生写真展 9:00~19:00 町中央公民館 (4日、5日)
 4日(土) ○役場閉庁
 ○シルバーサミット 13:30 町中央公民館
 7日(火) ○農業委員選挙告示 (12日投票)
 ○老人と子どものつどい 16:00 西原児童館
 8日(水) ○離乳食実習 13:30 町中央公民館
 9日(木) ○1歳半健診 13:30~14:15 町中央公民館
 11日(土) ○役場閉庁
 ○読み聞かせの会 10:00~12:00 町中央公民館
 12日(日) ○農業委員選挙投票日
 13日(月) ○絵本づくり講座 10:00~12:00 (全7回)町中央公民館
 14日(火) ○法律講座 19:30~21:30 (火・木-全10回)町中央公民館
 15日(水) ○役場閉庁
 ○敬老の日
 16日(木) ○麻疹 13:00~13:45 町中央公民館
 18日(土) ○役場閉庁
 ○風疹 13:30~14:30 町中央公民館
 20日(月) ○三歳児健診 13:30~14:15 町社会福祉センター
 21日(火) ○トランポリン 16:00 西原児童館
 23日(木) ○役場閉庁
 ○秋分の日
 25日(土) ○役場閉庁
 ○第3回 町/バレーボール祭り (26日)
 26日(日) ○国際交流料理講習会
 27日(月) ○子宮・乳ガン検診 13:30~15:00 町中央公民館
 28日(火) ○おだんごづくり 15:00 西原児童館

10月(Oct.)行事・祭事予定

- 2日(土) ○役場閉庁
 4日(月) ○三歳児健診 13:30~14:15 町社会福祉センター
 5日(火) ○子宮・乳ガン検診 13:30~15:00 町中央公民館
 7日(木) ○1歳半健診 13:30~14:15 町中央公民館
 9日(土) ○役場閉庁
 10日(日) ○町軽スポーツ大会
 ○体育の日
 11日(月) ○振替休日

※都合により日程を変更することがあります。

平成5年度 交通安全家族会議 作文募集応募要領

1 作文の題材

「我が家の交通安全」

交通事故をなくすためには、国民一人一人が交通安全意識を高め、正しい交通ルールと交通マナーを実践することが必要です。そのためには、歩行者、自転車利用者、バイク利用者、ドライバー等、それぞれの立場にある家族の皆さんが、折りにふれ、機会にふれ、身近な交通安全の問題について考え、話し合うことが大切です。

皆さんのご家庭、学校、職場、地域等において交通安全について考え、話し合った内容や方法、その結果実行していることなどについて、作文にしてください。

2 応募期間

平成5年7月1日から同年9月20日(消印有効)まで

3 応募区分

- ① 小学校低学年の部 (1年生及び2年生)
- ② 小学校中学年の部 (3年生及び4年生)
- ③ 小学校高学年の部 (5年生及び6年生)
- ④ 中学生の部
- ⑤ 母親・一般の部

4 応募方法

(1) 小学生の各部及び中学生の部

- 400字詰原稿用紙3枚以内
- 作文には、内容にふさわしい題をつけてください。
- また、応募作品には、応募区分、住所・郵便番号、氏名、学校名、学年、学校所在地・電話番号を明記してください。
- 送り先
〒101 東京都千代田区外神田2-2-17 共同ビル
(社)日本交通福祉協会 交通安全作文募集係(☎03-3255-2081)

(2) 母親・一般の部

- 400字詰原稿用紙5枚以内
- 作文には、内容にふさわしい題をつけてください。
- また、応募作品には、応募区分、住所・郵便番号、氏名、年齢、職業、電話番号を明記してください。
- 送り先
〒100 東京都千代田区霞が関3-1-1
総務庁交通安全対策室 交通安全作文募集係(☎03-3581-2872)

(3) 作文は、未発表のもので、自作のものに限ります。

5 主催

総務庁、(社)日本交通福祉協会、(社)全国交通安全母の会連合会、(財)全日本交通安全協会、(財)住友海上福祉財団及び財団法人交通安全教育普及協会

後援 警察庁及び文部省

6 その他

審査の結果は、入賞者のみ、本人あて(小学生の各部及び中学生の部にあつては、都道府県教育委員会→学校長経由)、通知します。応募原稿は、一切返却しません。入賞作品の著作権は、主催者に帰属するものとします。入賞作品は、作文集にして、入賞者その他関係者に配布します。

おわびと訂正

先月号の一頁、「世帯数八千四百一人」は「八千四百一戸」、「平年アピール」は「平和アピール」、三頁、文教大学の第一回講師「仲本興真(県レクリエーション協会会長)先生」は「仲本興真県民踊研究会会長先生」の誤りでしたので、おわびして訂正いたします。

9月9日は 「救急の日」



寄付・香典返し

(ありがとうございました)

- ▽米国ハワイ州ホノルル市ハナイ・ループ千五百七十番地、新川統武さんが、帰郷記念として町人材育成会へ五万円。
- ▽那覇市旭町二十七番地、金秀グループ(呉屋秀信会長)が、寄付として町人材育成会へ百万円、町社協へ三十万円。
- ▽字我謝六百九十五番地、小川信さんが、第一回個展開催記念として町人材育成会へ十万円。
- ▽字我謝八十八番地、小橋川繁子さんが、故母カメさんの香典返しとして町社協へ三万円。
- ▽那覇市泉崎二丁目八番地の六、牧野博嗣さんが、故母呉屋キヨさんの香典返しとして町社協へ十万円。